

「現地メディア向けプレスツアーの実施」

在ボツワナ日本国大使館

平成29年年3月8日

2月15日、在ボツワナ日本国大使館は現地メディア向けプレスツアーを実施し、新聞、テレビラジオ及び雑誌から計9社17名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やすとともに、ボツワナの政府関係者、知識層およびボツワナ国民への情報発信を強化するためのものです。

プレス一行は、まず、ハボロネ市パカラネを訪れ、日本政府による平成21年度環境プログラム無償資金協力「太陽光を活用したクリーンエネルギーの導入」（パカラネ太陽光発電所）の視察を行い、続いて、クウェネン地区メツィモタベ村で行われた、平成27年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「クウェネン地区セラメン小学校教室棟建設計画」の引渡式に参加しました。

環境プログラム無償資金協力「太陽光を活用したクリーンエネルギーの導入」 （パカラネ太陽光発電所）

ボツワナは、必要な電力を自国で100%発電することができず、一部を他国からの輸入に頼っており、電力不足は国の抱える課題の一つです。一方で、ボツワナにおける太陽光の日射レベルは世界最高水準にあり、太陽光発電所を建設するのに適した国であると言えます。

本事業では、無償資金協力の中でも特に環境分野に特化した環境プロジェクト無償資金協力として、ハボロネ郊外にあるパカラネの変電所に連携する1.3メガワットの太陽光発電システムの整備に必要な資金11億円が日本政府からボツワナ政府に供与され、システム構築が行われました。この発電システムは、現在ボツワナの国家送電網に接続され、国民へのエネルギー供給に直接貢献しているとともに、温室効果ガスの排出削減や再生可能エネルギーの導入のためのパイロットプロジェクトとして、ボツワナ政府による再生可能エネルギー活用の契機となることが期待されています。



パカラネ太陽光発電所の設備を説明するレソホ・ボツワナ電力公社エンジニア

草の根・人間の安全保障無償資金協力
「クウェネン地区セラメン小学校教室棟建設計画」引渡式

ボツワナ政府は、教育分野においては就学率の向上に重点を置いた政策を進めてきたため、就学適齢児の小学校入学率は全体の約9割に達しています。一方で、今後の課題として、より質の高い教育の提供や、それを可能とするための施設環境の整備・改善があげられます。

本案件は、当国首都ハボロネの中心部から車で約30分の距離に位置する、モホディツァーネ地域メツィモタベ村のセラメン小学校において、日本政府の支援により教室棟1棟（2教室）を建設したものです。同資金協力により、クウェネン地区評議会モホディツァーネ・タマハ地域支部に対して、70,018米ドルが供与され、同教室棟が建設されました。セラメン小学校では、一部の生徒は、野外に机を並べて学習することを強いられています。本案件の実施により、児童たちに適切な学習環境が提供され、彼らの意欲の高まりや学力向上が期待されます。



教室棟のテープカットを行う尾西大使



引渡式後の尾西大使、
基礎教育副大臣及び出席者たち

報道ぶり

プレスツアーの実施に関して、多くのメディアが今回のツアーや日本の開発協力について取り上げました。ボツワナの国営テレビ放送局であるBTVは約3分間にわたるツアーの映像をニュース番組内で放送、その他、ラジオ放送局や新聞社も開発協力分野における日本の貢献を報じました。多くの人々が目にするメディアで開発協力事業が取り上げられることで、ボツワナ国民の我が国開発協力事業に対する理解も深まりました。

関連リンク（外部サイト）

プレスツアー後にリリースされたデイリー・ニュース紙のウェブ記事

<http://www.dailynews.gov.bw/news-details.php?nid=34076>

（邦訳：「日本大使館が教室を寄附する」）

プレスツアー後にリリースされたメヒ紙のウェブ記事

<http://www.mmegi.bw/index.php?aid=66818&dir=2017/february/21>

（邦訳：「日本大使館が教室を引き渡す」）